

福音の園だより

平成十八年度「高齢者雇用優良事業所 協会会長賞」受賞
TBSラジオ『メイ』の『きききモーニング』取材紹介施設

グループホーム・デイサービス介護保険事業者指定
350-0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一
特定非営利活動法人 **福音の園・埼玉 事務局**
☎049-230-1111(代)230-1112

イースター(復活節)に寄せて

親孝行のホームランだ！

母がお世話になっていた時、前夜式（その前の母が召された夜も）でお会いした時、そして先日そちらにお伺いした時、母が皆さんにどれほど愛されていたか、思えば思うほどうれしく、有り難く、それ故深い悲しみもあります。しかし、…。

二五日に葬儀が終り、骨となった母を抱いて家に戻りポストを見ましたら、S・S様からの（涙ながらの）葉書が届いておりました。まるで自分の母親であるかのように思い出を語り、その死を悲しんで下さる方との出会いは、「福音の園」スタッフ皆さんとの（そちらに入らなければ有り得なかった）出会い同様、母の晩年を神様が祝福し恵んで下さったものと確信しています。又、二六日に教会の礼拝に向かう車中で、T兄より「母さんを『福音の園』に入れていただけたこと、そのためにお前が努力したこととは親孝行のホームランだ。有難う」と言われたこともお伝えしておきます。

ホーム長様はじめ皆さんに感謝したい



こと、お伝えしたいことは山ほどありますのに（物書きを自称する者にしては情けないことです）が、筆が進みません。ご容赦下さい。ただ心から感謝し、本当に「福音の家」であることを証しし、これからも折りにふれて協力をさせていいただき、交わりをお願い申し上げます。近い中に、また伺わせていただきます。本当に有難うございます。 早々。

二〇〇八・十一・三

K・T

（注・昨年十月二三日、九八才で逝去されたK・Kさん

ご家族様のお便りの一部を掲載いたしました。）

心に触れる優しい支援・希望への支援の実践

最期にいただくケアの通信簿

グループホーム **福音の園・川越** ホーム長 杉澤 卓巳
K・Kさん（九八才・女性）は、三年一ヶ月「共に生活」された。いつもと変わりなく元気に花菜園へ出て「園芸療法の日」を楽しまれ、午後面会下さった息子さんと和やかに過ごされた日の夕方、発病急変し逝去された。同夜遅くご家族と共に斎場へ向かうそのお顔は、福音の園での生活を物語るように満面の笑みを湛えて、満ち足りた平安そのものだった。後日届いた上段掲載の礼状をスタッフ全員に見せた。「母さんを『福音の園』に入れていただけたこと、そのためにお前が努力したことは親孝行のホームランだ。」に皆で涙した。さらに思いも寄らない、「ではさようなら」で終わってしまったのではなく、「これからも折りにふれて協力をさせていいただき、交わりをお願い申し上げます。」と結ばれていた。これが最期に頂いたケアの通信簿であり、これが福音の園の「介護力」だとスタッフをねぎらい、この喜びを皆で高めていこうと理念の再確認をした。



ボランティアの声

ひな祭りの昼食ボランティアに参加して

ひな祭りの日が近づくと、多人数の食事が出来るかな？ 味付けや大きさは？ 配色は？ といろいろ不安が膨らんできました。調理が進み昼食も出来上がり、恩師や皆様方から「美味しい」の声を聞き、やっと肩の荷が下りました。

恩師は福音の園に入居してからは、表現が豊かになり笑みも溢れる様になりました。

これらは一重にホーム長さん始め職員の皆様方の、真心のこもったケアのお蔭です。感謝の気持ちで一杯です。有難う御座いました。

（川越市〇〇〇〇）

福音の園・川越 スタッフ一覧（四月一日現在）

早出・普通・準遅・遅出・夜勤の五交代制でお世話をさせていただくスタッフを紹介いたします。

一階・計画作成担当・杉澤 玉美（介護支援専門員）

介護職・松田 亘司、神田津枝江、鈴木 昌子、羽田野

ちづ子、山口 藤子、山口 静江、小島 佳代、安藤

登美子。

看護職・石井 浩子。 事務職・浅見 益子。

二階・計画作成担当・西澤 和康（介護支援専門員）

介護職・杉山 直美、小島 悦子、石井ひとみ、長澤

きつ子、小野 登代、杉山 和子、南里紀代子、横山

千世、小笠原美和子。

管理者（ホーム長）・杉澤 卓巳。 以上、二十二名。

来訪歓迎

「住まいから福祉を考える会」様千葉県流山市・六名